



第35回民踊まつり (3月26日 文化会館)

主な内容

- 小池市長の市政報告
・平成29年度の施政方針について… 25
- 平成28年度加茂市表彰式 …… 26/27
- 平成28年度加茂市教育委員会表彰式 27
- 加茂市の風土記 …… 28
「中沢遺跡出土の北陸系土器群」

百年に一度の唯一の好機！

新加茂病院に産科の個室 20室を確保しました！ 妊婦の方々は、皆 個室を希望しています。

新加茂病院の隣りに病児保育園を確保しました！ お金は加茂市と田上町が負担！

この二つこそ絶対必要な少子化対策！

産科の個室が1つでは、医師も妊婦もやって来ず、産科は実現しません。

市政報告

加茂市長 小池清彦

(これまでの回顧)

平成二十九年度の施政方針について

三月八日、市議会で御説明いたしました施政方針の全文を御報告申し上げます。

市議会において、御審議いただき、可決されました平成二十九年度の予算案の重要事項は、この施政方針で御説明してございますが、さらに詳しい内容につきましては、先日さし上げました別冊の「平成二十九年度当初予算概要」を御覧いただきたいと思えます。

平成二十九年度の施政方針（全文）

平成二十九年度の施政方針について、御説明申し上げます。

平成七年五月、「加茂市に大きな夢と新しい風を」、「民主的市政と福祉と繁栄を」の願いを込めて、十二項目の公約を掲げて市長に就任させていただきまして以来、この基本はいささかも変わることなく、仁の一字、愛情を根本として市政を推進させていただくことに努め、今日に至りました。この間、市民の皆様の温かい御指導と御支援の下、市議会議員の皆様の力強い御指導と御支援を賜りながら相共に手を携えて、市政を推進してまいりました。ここに、改めまして市民の皆様お一人おひとりと市議会議員の皆様お一人おひとりに対しまして、厚い感謝の思いを込めて、心から御礼申し上げます。また、職員各位の御協力と御尽力に対しましても、心から感謝の意を表するものであります。

今日まで、私は、ひたすら市民の皆様お一人おひとりのおっしゃることをよくお聞きして、その御指導に従い、市民の皆様お一人おひとりを大切にし、最高にお幸せにすることを根本として、市政を推進してまいりました。即ち、「よもやま話路

線」でございます。私がこれまでに推進させてい
ただきました市政は、ほとんどすべて市民の皆様
からいただいたアイデアに基づくものでござい
ます。市民の皆様からいただきましたアイデアは、
いずれも現実の生活の中から生まれた、この上な
くすばらしいものであり、民主主義の偉大さに感
動する日々でございました。こうしたお陰により、
加茂市は日本のトップクラスの福祉と児童福祉
のまち、健康施策のまちとなり、日本で最も商工
業と農業が守られているまちとなり、日本で最も
自然環境が保護されているまちとなり、市民の皆
様が幸せに生活して行かれるための諸施設の整
ったまちとなりました。

また、このように、市民の皆様、市議会議員の
皆様、そして市役所の諸官とともに市政を推進し
てまいりました結果、加茂市は合併で消滅するこ
となく、存続することができました。そして、猿
毛山も消滅を免れ存続することができました。み
んなで加茂市と猿毛山を消滅から守ることがで
きましたことは、私達が先祖に對しまして、子
孫に對しても、誠に申し訳の立つ、加茂市民
みんなの歴史的偉業であり、誇らしく思います。

待望の加茂大橋も完成し、第二平成園、第三平

成園、屋内ゲートボール場や夜間も使用できる屋
外テニス場もオープンいたしました。

温水プールもオープンし、優れたコーチをお招き
してスイミングスクールも開催されております。

冬鳥越スキー場も加茂市営となり、日の出荘口
ツジ・ウエーデルンやTバーリフト三基も完成し、
芝生や遊歩道も整備され、冬鳥越スキーガーデン
として一年中お楽しみいただける洋式庭園とな
りました。歴史的文化的価値の高い新潟県最古の
電車モハ1の復元もなされ、電気機関車も展示さ
れ、日本一の花時計も造られ、近隣最大規模の二
千七百本のバラ園もオープンいたしました。

温泉も湧出し、日本有数の温泉「加茂美人の湯」
は、市民の皆様をはじめ、大勢の皆様が心行くま
で楽しんでおられます。

また、日本有数の体操トレーニングセンターも
完成し、加茂体操クラブを長年かけて育てあげら
れた横山正明先生のところに、さらに元オリンピ
ック選手であられ、北京オリンピックの日本体操
チームのコーチであられた新潟経営大学の齋藤
良宏先生と奥様の元オリンピック選手で日本の
新体操界の中心的存在であられる齋藤里絵子先
生がおいになり、新体操教室も開かれ、さらに

東京オリンピック女子体操銅メダリストの中村多仁子先生もひんぱんに指導においでになり、日本一の体制となっております。

市営サッカー場も完成いたしました。

また、画期的なこととして、国が四三％負担する「まちづくり交付金事業」を利用して平成十八年旧まるよし五番町店のあとに、公設民営の食料品スーパーと風呂付きの中央コミュニティセンターを開設いたしました。

同時に同じ「まちづくり交付金事業」として根古屋中央線の道路の拡幅整備を行い、遂に本量寺大門通りに達して、平成二十一年度末に事業を完了いたしました。

かくして、三つの特別養護老人ホームも備わり、六つのコミュニティセンターとかも川荘、ゆきつばき荘、西加茂集会施設も完備いたしました。

多くの体育施設、文化施設も完備いたしました。加茂山公園、粟ヶ岳県民休養地、下条川ダム公園、若宮公園、二万年前旧石器公園をはじめ、多くの公園も整備されてまいりました。

平成二十五年には、若宮公園横断道路が完成し、加茂市で初めての環状線が完成いたしました。

平成十八年十二月二十一日から三条広域水道

矢立配水池の完成により、加茂市民の皆様全員が粟ヶ岳の水が飲めるようになりました。

上水道につきましては、十八年度に西山に完成し、十九年度に上大谷と中大谷に完成して、加茂市全域をカバーすることになりました。

公共交通網につきましては、市民バスが蒲原鉄道バス路線のすべてを引き継ぎ、平成二十六年十月には、長福寺・希望ヶ丘線が開通いたしました。その結果、加茂市の市民バス路線網は、一部をカバーする新潟交通観光バス株と越後交通株の路線と併せて、加茂市のほとんど全域をカバーすることとなりました。

残っているのは、猿毛・小貫・駒岡・八幡・神明町・青海町(加茂病院)・加茂駅の路線でございますが、これを今年度に通じたいと存じます。

スクールバスにつきましては、三十台の日本一の体制となり、児童・生徒の皆さんの登下校時の安全をしっかりと確保いたしております。

さて、ここまでまいった加茂市でございますが、平成十三年度に小泉内閣が出現してからは、県も各市町村も、地方交付税交付金のうち、自由に使える分を大幅に削減され、貯金を喰わなければ、予算編成ができない状況に追い込まれたのでご

ございました。

臨時財政対策債も含めて地方交付税の削減は、安倍第一次内閣になってからも改善されず、さらに厳しく行われることになりましたが、福田内閣が登場して、二十年度にようやく下げ止まることになりました。

市町村合併を行った市町村は、地方交付税をこのように削減された水準から、さらにその「段階補正」による、いわゆる一本算定で、さらに地方交付税を削減されるのですから、誠に「泣き面にハチ」の状況であります。

地方交付税交付金の中で、加茂市が自由にできる金は、平成十九年度までの小泉内閣と安倍第一次内閣の六年間に毎年来る金が十億三千万円も減らされることになりました。

小泉・安倍両内閣によつて減らされた毎年の十億三千万円は、市職員の半分に近い百四十七人分の人件費に相当する法外な金額であります。

こうした中で加茂市は、やむを得ず、極めて好ましくない人員削減と大幅な経費削減を行いつつながら、福祉、商工業支援、農業支援、諸団体等に対する補助金等、市民の皆様にご直接関係する予算は一切削減せず、市政の高い水準を堅持いたしました。

した。しかしながら加茂市も他の市町村と同様に貯金を喰わざるをえず、小泉内閣が出現した平成十三年度に十八億五千万円あった貯金の基金の総額は、平成二十年度末には、二億三千三百万円となつたのであります。

なお、貯金はゼロになつても、翌年度の予算を喰う「繰上充用」が認められ、加茂市の場合、この繰上充用が十四億円まで認められております。

一方、これまで加茂市は、高い市政の水準を落とさず堅持しながら、県内で、人口に対して職員数の割合がきわめて少ないまち、即ち、行政改革のきわめて進んだまちであるにもかかわらず、毎年何人退職しても二人位しか採用しないという、職員のさらなる人員削減を行いました。その結果、平成十三年度当初に三百三十二人だった常勤の職員の数は、二十八年度末には、二百三十人となつて、百二人の人員削減を行ったこととなります。このように加茂市は、知恵をしぼって必死に経費節減を行い、また、極力国のお金を使って事業を行うようにしてまいりました。

その後の福田内閣、麻生内閣、鳩山内閣は、地方交付税を合わせて五億五千万円増やしてくれましたのであります。

特に民主党の鳩山内閣は、地方重視と弱者重視の政策をとり、加茂市が自由に使える交付税交付金を、二十二年度の普通交付税分だけで二億六千万円増額したのでございました。

ところが、そのあとを継いだ菅内閣と野田内閣は、平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災に対処することもあって、再び緊縮財政政策をとり、地方交付税の大幅削減を行ったのでございました。

その結果、野田内閣の末期までに、加茂市が自由にできる地方交付税は、平成十三年度からみて、五億九千万円削られたままとりました。

平成二十四年暮の衆議院選挙で自民党が勝利し、安倍内閣が誕生いたしました。

ところがこの安倍内閣は、平成二十六年度末までに加茂市が自由にできる地方交付税を一億三千四百万円も削ってしまいました。この他に平成二十六年から制度的に加茂市に來なくなつた普通交付税（下水道の高資本対策費）が三千五百万円ありますので、結局平成十三年度以来平成二十六年末までに加茂市は地方交付税交付金を毎年べースで七億六千万円削られたことになりました。

その結果は他の市町村同様ひどいもので、加茂

市の貯金即ち貯金的資金は、二十六年末には、三千五百七十七万円にまで減ってしまいました。

しかし、二十七年に安倍内閣は、地方交付税交付金と地方消費税交付金を合わせて、加茂市が自由に使える分を二億五千万円増やしてくれましたので、平成二十七年末におきましては、平成十三年以来四億九千八百万円ほど削られたままとります。

このように加茂市の財政状況は、平成二十七年に大きく好転いたしました。が、まだまだ厳しい状況で、翌年度への繰越金もできるだけ多く確保せねばなりませんので、二十七年末の貯金は、七千五百八十二万円となりました。

そして二十八年度末の貯金は、二億百万円まで増加する見込みであります。

（今後の財政見通し）

加茂市は、福祉をはじめ、健康施策、商工業保護、農業保護、教育、文化施策、体育施策、道路、河川、自然環境保全等万般にわたり、日本のトップクラスをと心がけて来たまちでありますので、当然出費の多いまちであります。そして、これを健全財政を維持しつつ、やり遂げて行くことが肝

要であり、加茂市はこのことに成功して来たわけであります。

このように高い市政の水準を維持しつつ、平成二十九年度末には、二億四千万円ほどの貯金を保有して、豊かな財政運営を行っていくことになりました。

そして、平成三十年度には、起債の返済額が一億五千五百万円も減り、その後も起債返済額が減って行きますので、財政はますます楽になり、第四平成園等のビッグ・プロジェクトを実現して行くことになりました。

さて、平成二十四年暮に誕生した第二次安倍内閣は、前回の政策とは正反対のある種の拡大財政政策をとり、二%のインフレ目標を掲げて、日銀による無制限に近い金融緩和に乗り出しました。

この三本の矢と称して、大胆な金融緩和、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を標ぼうする安倍内閣の出現により、たちまち円は下がり、株は上がる結果となりました。

この安倍内閣の経済政策は、私が着任以来主張して来たところと一部合致しておりまして、安倍総理が断固としてこの政策を推進され、断固として日銀引受けの国債発行を断行し、消費税増税を

凍結して、日本の大繁栄を実現されて、少子化までも脱却されることを祈念してやまなかつたのであります。実際には、安倍総理は、日銀引受けの国債発行は行わず、消費税増税を断行し、日銀が、市中銀行が日銀にあずけている当座預金から利息をとる、いわゆるマイナス金利政策を実行したその結果が不透明で、さらに中国経済の悪化やヨーロッパの経済的混乱等が世界的な景気後退を来たしており、マイナス金利政策はやめる方向になつたようですが、アベノミクスと称する経済政策は、前途多難な状況となっております。

さらに加えて、平成二十九年一月に就任したトランプアメリカ大統領は、アメリカ第一主義を掲げて保護貿易主義と不法移民の排斥政策をとりつつあります。トランプ大統領の拡大財政政策はよいと思うのですが、アメリカの今後も、それが世界経済と日本経済に与える影響も不透明であります。他方において、安倍総理の海外派兵を強行する軍事政策は、国民を不幸にし、国を危くするものであります。このことについては、あとで述べることにいたします。

（平成二十九年予算）

そこで、平成二十九年予算でございますが、一言で言えば、「高い水準の市政を堅持しつつ、病児保育園の建設、全小中学校の教室の冷房化、全市営体育館の冷暖房化、北コミュニティセンター建設、猿毛ー加茂駅間の加茂川右岸の市民バス路線の開通、七谷の堰ノ川の地下分水路の建設、須田の広域農道の延長、消防団員の出動手当等の県内最高額への増額等のたくさんの重要政策を實現して、市民の皆様お一人おひとりを最大限にお幸せにする黒字の予算」であります。

平成二十九年当初の一般会計予算総額は、百三十九億四千万円で、対前年五億六千九百万円（四・三％）の増額でございます（二十八年度は、百三十三億七千万円）。なお、民間の金融機関からの借入金で十年の期限が来たときに、さらに借りる約束になっている借換債を除く実質の比較では、平成二十九年当初予算は、対前年四億四千二百十万円（三・三％）の増額となっております。

また、加茂市が負担する支出であるいわゆる一般財源は、二十八年度の七十九億八千八百万円に對して、二十九年度は、七十九億六千百万円で、

二千七百万円（〇・三％）の減額となっております。

このたびの加茂市の平成二十九年一般会計予算は、四千万円の黒字予算であります。

この予算により、加茂市の貯金即ち、貯金的基金の合計は、平成二十九年当初には、二億百万円ですが、二十九年度末には、二億四千万円まで増加する見込みであります。

次に、一般会計と各特別会計の予算総額を単純に合計した額は、二百三十六億七千万円で、対前年二・九％の増額でございます（二十八年度は、二百三十億一千万円）。

平成二十九年当初の一般会計予算総額百三十九億四千万円には、加茂市の制度融資の利子補給のための預託金とするため、市が金融機関から一時借入する二十七億一千七百万円が含まれておりますので、これを除くと、加茂市の実質的な予算総額は、百十二億二千三百万円となります。

歳入予算の構成比は、自主財源が四五・五％、依存財源が五四・五％となっておりますが、ただ今申しました一時借入する預託金分を除いて考えますと、実際は、自主財源の構成比は三二・四％、依存財源は六七・六％となります。

これが現実の加茂市の実態であり、日本海側の

市町村の一般的な姿であります。従って、国が市町村にお金をよこさない場合は、日本海側等の相対的に貧しい地域を直撃することになるのです。

しかしながら、加茂市は、自分の金は極力使わず、国と県の金を大量に使わせていただいて、豊かな市政を運営してまいったところでございまして、加茂市の財政状況は、良好で、健全であります。

公債費比率から国の負担分を除いた加茂市の負担分を示す指標である起債制限比率は八・二%で理想的というよりは、むしろ少な過ぎる状態です。一応の注意ラインである一五%に比べ、低過ぎるといってもよろしいと思います。

特別会計も含んだ起債制限比率ともいうべき実質公債費比率は、一一・七%で、これまた良好な状態であります。一応の注意ラインである一八%を大きく下回っております。いわんや、財政再建団体になる三五%とは無縁のことです。

市債残高は、その大半が国の負担分であって、加茂市の負担分は、少ないのですが、そうした国の負担分を含めての市債残高も平成十年度に最高百四十六億円あったものが、二十九年度末には、百億円に減ります。しかも、この百億円のうち加

茂市が負担する分は、三十三億円に過ぎません。残りの六十七億円は、すべて国が負担してくれる分です。

加茂市の借金即ち市債残高のうち、加茂市が負担する分は、平成十年度末八十一億円、二十一年度末五十一億円、二十二年度末五十億円、二十三年度末五十二億円、二十四年度末五十億円、二十五年末四十七億円、二十六年末四十三億円、二十七年末三十八億円、二十八年度末三十五億円、二十九年度末三十三億円と、十九年間に五九%も減りました。

なお、地方交付税交付金そのものであり、返すときに全額国が出してくれる臨時財政対策債がずいぶんたまり、加茂市においても、五十一億円に達しております。これは実質借金ではありませんので、これを除くと、加茂市の市債残高は、四十九億円となります。

経常収支比率は、九九・〇%で、これが相当高いということ、福祉や教育や産業の支援や下水道に力を入れているまちであることを示し、また、国の金を大量に導入しているまちであることを示しておりますので、これまた理想的な状態であります。

（地方創生交付金事業）

次に安倍政権は、二十六年に地方創生と称して、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を加茂市に一億三百九十一万七千円交付して来ました。この交付金は、平成二十六年補正予算に計上し、二十七年に繰越して使用するものですが、国は二十七年にさらに一千万円追加交付して来ましたので、この交付金の合計は、一億一千三百九十一万七千円となります。

そしてこの交付金は、地域消費喚起・生活支援型五千八百七十一万六千円と地方創生先行型五千二百二十万一千円から成っております。

この地方創生交付金をどのように使うかについては、内閣府に地方創生推進室という室が置かれ、各市町村は、実施したいプロジェクトを一つこの地方創生推進室に伺いをたてて、その了解をとり、あるいは、修正してもらったりしながらやっていくというやり方がとられました。

ところが、この内閣府地方創生推進室には極めて優秀な国の官僚が多数配置されておりまして、伺いをたてるたびに、すぐに的確な返答がまいります。

ことに加茂市は、他の市町村ではやっていない先進的事業をたくさんやっておりますので、これらの事業をこの地方創生交付金でやりたいという伺いをたてると、ほとんどすべてOKの返事がかえってまいりました。

このようにして、平成二十七年に加茂市が実施した、地方創生交付金事業は、次のとおりであります。

地方消費喚起・生活支援型 五千八百七十一万六千円

プレミアム商品券（三割のプレミアム）

三千五百万円

農機具購入費補助

八百七十一万六千円

在宅介護料・看護料の無料化

千五百万円

地方創生先行型 五百五十二万二千円

不妊治療、妊産婦医療費、子ども医療費、私立幼稚園・保育園運営費補助

二千五百二十万二千円

加茂市史編さん、加茂和紙復活、中学校茶道部創設

七百万円

タンス、屏風、建具、鉄工業販路開拓

企業の新設・増設支援

一千万円

里山遊歩道整備

八百万円

その後の地方創生事業につきましては、各市町村が地方創生総合戦略を策定して、個々の事業について、国に伺いをたてながら実施して行くことになっております。

政府の要請に基づき、加茂市では、平成二十七年十月に、「加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をつくりました。その中で、次の七つの基本目標を掲げております。

(1) 国全体の施策：国の金で育児休業を三年とれるようにすること等

(2) 安心して子どもを産み育てることができる環境づくり

(3) 高齢者も幸せに暮らせるまちづくり

(4) 障害者にやさしいまちづくり

(5) ふるさとに対する誇りを高める施策の推進

(6) 日本人のたしなみとしての技芸教育を振興し、小京都加茂に対する愛着と誇りをかん養する。雪国に生まれ育った人間のたしなみとしてのウインタースポーツの教育の振興。

(7) 農業の振興

二十八年度の個々の地方創生推進交付金事業につきましましては、この総合戦略に基づき、十三項

目について、三千四百五万円の事業を実施いたしました。また、二十九年度の個々の事業につきましては、同じくこの総合戦略に基づき、十七項目について、四千六百万円の事業を実施する予定で、その五〇%を国が負担いたします。

（平成二十九年度の加茂市政の重点）

以上のように加茂市の財政状況は、加茂市政の高い水準を堅持して行くことができるものであって、豊かで、良好で、健全でございまして、夕張市とは正反対の状況であります。

ただ今御説明した予算を前提として、平成二十九年年度の加茂市政の重点について申し上げます。平成二十九年度におきましても、市民中心の真の民主的市政をさらに推進し、これまでに到達した市政の高い水準をさらに高め、充実させてまいりたいと存じます。

「市民と市長のよもやま話の日」には、市民の皆様がおいでになり、本当に感謝しております。本年度も市民の皆様方のお越しを心からお待ち申し上げます。

また、地元選出の衆参両院議員、県議会議員並びに市議会議員の皆様方の御支援も仰ぎながら、国・県と太いパイプを結んで、多くの重要政策を実現してまいりたいと存じます。

（平和憲法を守り、徴兵制を阻止する）

平成七年十二月、加茂市は「非核平和都市」を宣言いたしました。私は着任以来、日本国憲法の平和主義の旗を高く掲げて前進することを宣言し続けてまいりました。

ところが、小泉内閣と第一次安倍内閣の政策は、まことに憂慮にたえないものがあり、憲法違反のイラク出兵を行い、憲法改正までもが行われようといったしました。民主党政権の誕生の結果、憲法改正の切迫した危機は回避されましたが、再び第二次安倍内閣が登場いたしましたので、重大な危機が到来いたしました。

早速安倍総理が行ったものが、現憲法の解釈による集団的自衛権の容認の企てでありました。

私は、これは憲法違反であるとして、二度にわたって安倍総理に意見書を提出し、これを全国会議員に送付いたしました。

幸に、連立を組む公明党が、自民党案を精一杯トーンダウンさせました。

その結果、閣議決定されたものは、もはや集団的自衛権ではなく、個別的自衛権であると私は前述の意見書で述べた次第です。

今後、この閣議決定が火種となってエスカレーターし、憲法違反の集団的自衛権が出現して、平和憲法が改正されたと同じ結果とならないよう力を尽してまいりたいと思えます。

安倍総理の企ては、いわゆる「平和安全法制整備法」と「国際平和支援法」として国会に提出され、全国的に違憲論と反対運動がまき起る中で平成二十七年九月十九日に成立いたしました。

「平和安全法制整備法」の中で「自衛隊法」の改正に係る部分が、「現憲法の解釈による集団的自衛権の容認」に関するものでありますが、「国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律」の改正に係る部分に国連平和協力業務（PKO）の一つとして、いわゆる「かけつけ警護」が加えられたことにより、自衛隊員の生命の危険が増すことになりました。

一方、みんなが集団的自衛権に気をとられている間に成立した「国際平和支援法」は、極めて危

険な法律であります。これは、何らかの国連決議さえあれば、自衛隊員をアフガニスタンであろうが、イスラム国であろうが、世界中のあらゆる紛争の場所に投入できる危険な法律であります。後方支援に限られるとしても、武器の輸送も任務の中に入っており、現代の戦争は、中東の現状をみてもわかるように正面も後方もありません。特に補給や輸送等の後方支援は戦争の最も重要な部分であり、最も攻撃を受けやすい部分であります。もし、この「国際平和支援法」が発動されるならば、自衛隊に大量の戦死者が出て、自衛隊に入る人が少なくなり、徴兵制へとつながっていくことを危惧いたします。

今や日本の歴史の大きな曲がり角であります。日本が平和で民主的で繁栄する国であり続けるのか、それとも全体主義、ファシズム、軍国主義の国となって、国民は徴兵制の下で海外で血を流し続け、やがて没落していく国となるのかの別れ道であります。

現在日本は、憲法と両立する形で自衛隊という名の軍隊を持つに至っております。現憲法第九条第二項には、いわゆる「芦田修正」が施されておりますので、日本は自衛のためには軍備が持てる

ことになっているのであります。従って軍備を持つために憲法を改正する必要はないのであります。尖閣諸島の問題などで国防が不安になれば、平和憲法の下で軍備を強化すれば、それでよいのであります。そして一方で、これまで平和憲法が果たしてきたもう一つの役割が強く認識されるようになっているのであります。即ち、平和憲法がなかったならば、日本は、間違いなく朝鮮戦争にも、ベトナム戦争にも、湾岸戦争にも派兵させられていたであろうとあります。

ここで憲法を改正するということは、国民が徴兵制の下で海外での戦争に狩り出され、血を流し続けることになることを意味するのであります。今や平和憲法は、国の宝であります。平和憲法が存在する限り、国民が海外で血を流すことはなく、日本は永遠に安泰なのであります。人類歴史上落とされた二発の原爆のその一発のすべての惨害を受けた日本の平和国家としての立場は、極めて強固なものであり、すべての世界の国が理解していることなのであります。私は、二十九年におきましても、断固として平和憲法を守り抜く決意であります。

（平成二十九年当初予算編成方針）

以下、加茂市平成二十九年当初予算（案）概要に掲げさせていただきました平成二十九年当初予算編成方針を読みながら御説明申し上げます。

平成二十九年当初予算編成方針

1 県内トップの子ども医療費の無料化、保育料の大幅軽減、手厚い健診・予防接種等の低年齢世代に対する支援と県内で一番安い介護保険料、無料の在宅介護・看護、七十人のホームヘルパー、手厚い健診・予防接種等の高齢世代やその他の世代に対する支援を併せて、日本一の福祉の水準を堅持する。

2 新県立加茂病院の産科と病児保育施設については、加茂市の要望通り産科優先の個室二十室を確保し、加茂病院の隣接地に加茂市・田上町が病児保育施設を建設することになった。その実現をはじめ、立派な病院をつくることに全力を尽くす。

3 白根と並ぶ新潟県の二大果樹産地である加茂市の果樹産業が壊滅の危機に陥っていることが判明した。加茂市の果樹園の四五％が信濃川の河川敷の中にあり、その果樹農家は三年毎

に国土交通省から河川占用許可をもらっている。その際、平成十一年度に「果樹の新植、補植は禁止する。」という条件をつけられていたことが判明した。厳しい闘いであったが、この条件を撤廃させることに成功した。今後とも果樹農家を守り抜く。

4 加茂病院敷地の隣接地に、田上町と協同で、病児保育施設を建設する。二十九年途中で完成する。このため、加茂市・田上町消防衛生組合を加茂市・田上町消防衛生保育組合に改編し、予算を計上した。（国・県が建物建設費の二二・九二％を負担するが、国が維持運営費を大幅に負担する。）

5 加茂市の全小学校七校と全中学校五校の十二校の教室を冷房化する。平成二十八年度の国の補正予算で認められて着手した。夏までに完成と運用開始をめざす。（所要経費の三分の二を国が負担）

6 加茂市営の全体育館即ち市民体育館、勤労者体育センター、下条体育センター、須田体育館、屋内ゲートボール場を冷房化する。（所要経費の七割は国が負担）

なお、加茂市は、二〇二〇年の東京オリンピックでの外国選手の練習場として、体操トレーニングセンター（体操）、勤労者体育センター

(新体操)、下条体育センター(柔道、空手道)への誘致を計画しているが、冷房装置があることが、採用条件とされている。

7 都ヶ丘に隣接する高台の赤谷の公園のところに、北コミュニティセンターを建設する。(国が経費の四〇%を負担。残額の七五%は二十年の起債。二十九年度中に完成)

8 若宮中学校にエレベーターを必要とする生徒さんが入学するので、同校にエレベーターを設置する。平成二十八年度の国の補正予算で認められて着手した。本年四月末の完成をめざす。(所要経費の三分の二を国が負担)

9 下条小学校、石川小学校、葵中学校、勤労青少年ホーム、母子健康センターの非常階段を新しくする。(所要経費の七〇%を国が負担)

10 加茂市内で市民バスが運行されていない唯一の地域である猿毛・小貫・乳倉子・駒岡・八幡・上条・神明町一丁目・神明町二丁目・青海町(加茂病院)・加茂駅の区間に、市民バスを運行する。本年十二月運行開始をめざす。

11 新町雁木通り商店街の整備を推進する。多目的広場建設の準備も進める。

12 ホームヘルパーの給料を国の支援を受けて

大幅に増額する。

13 消防団員の出勤手当その他の手当を県内最高額にまで引き上げて、その労に報いる。

14 大地震の際の救出作業のため、消防団の三十の各部に対し、強力なカッター(チェーンソー)の配備に着手する。

15 七谷の堰ノ川の地下分水路を建設する。極力平成二十九年度末完成をめざす。

16 須田の広域農道の国道八号線までの延伸工事に着手する。

17 地方創生政策を推進する。このため、国からできるだけ多くの交付金がもらえるよう努力する。

18 第三平成園が完成し、施設介護を必要とする人は、全員介護施設に入所できることになったが、その後すでに待機者が出はじめており、今後施設介護を必要とする人が大幅に増加するので、第四平成園の構想の策定の準備をする。

19 いわゆる「ふるさと納税」(ふるさと寄付金)を本格的に開始する。

20 平成二十八年度末の国民健康保険特別会計の収支残高の赤字は減って二億五千四十一万六千円となる見込みである。

国民健康保険特別会計の赤字は、他の特別会

計同様、翌年度予算を充てる「繰上げ充用」が認められているので、会計上の問題はない。

一方、平成三十年以降は、県が国民健康保険を所管することになる。実際は、これまでのように各市町村が、国民健康保険特別会計を持って運営して行くことになるが、保険料率については、各市町村毎の新しい料率になる。

そこで、加茂市といたしましては、国の支援を受けたり、いろいろな措置を行いながら、知恵の限りを尽くして、引き続き、国保加入者の皆様方のお幸せをしつかりと守ってまいりたいと思います。

21 天神林浄水場等の電気計装施設を更新する。

22 平成三十一年新潟県で開催予定の国民文化祭への参加をめざす。(全日本民謡大会の開催)

23 不燃ごみの収集を月二回に増やしたが、これを堅持する。

24 女性が安心して子どもを生み育てることができる加茂市をつくるため、全力を尽くす。

25 小京都加茂市の自然の行き過ぎた破壊を防止する。

26 労働界と定期協議を行いながら、全力をあげて支援する。

27 複雑な経済情勢の中、最大限に市民の皆様と企業をお守りする。国の有利な借換保証制度等を支援し、無担保無保証人の小口融資をしつかりと行う。中小企業経営安定資金を十分に提供する。

28 大豪雨に備え、信濃川にもう一本分水を増設するため力を尽くし、加茂川と下条川の堤防のかさ上げの工事を推進する。県は、加茂川下流の堆積土砂を全部とることを約束した。下条川上流部の川幅拡大工事を推進する。整備した災害対策本部中央指揮所の器材を十分に活用する。

29 信濃川の右岸の土手の山島から天神林までの千二百メートルが、まだ、かさ上げされておらず、国はかさ上げを約束しているが、これを早急に行ってもらおうよう全力を尽くす。

30 国の新しい方式に基づく洪水ハザードマップを国土交通省北陸地方整備局及び新潟県土木部と協力して、新潟県で初めて作成する。

31 小京都加茂の新しいシンボル加茂大橋をしつかりと維持運営する。

32 消費税率の引き上げに伴う、国からの低所得者への臨時福祉給付金(一万五千元)の給付を円滑に行う。

33 県内トップの子ども医療費助成を行う。即ち、

入院は高校卒業まで完全無料とし、通院も高校卒業まで原則無料とする。

- 34 妊娠希望の女性及び妊婦の家族に対し、風しんワクチン接種及び抗体検査を無料で実施する。
- 35 市民バスの運行を十分に行う。上黒水にも行くようになり、長福寺・希望ヶ丘線も開通した。残る猿毛・小貫・乳倉子・駒岡一八幡・上条・神明町一丁目・神明町二丁目・青海町（加茂病院）・加茂駅の区間の路線を開通する。本年十二月運行開始予定。これで、バス路線が加茂市中に行きわたる。

- 36 国道四〇三号バイパスの建設を推進する。これまで加茂大橋の予算がこれに向けられるよう努力する。下条矢立境線までが完成したので、その先の整備を推進する。

- 37 かさ上げされた信濃川両岸の堤防の上に対面通行の市道の整備を完了した。これをしっかりと維持管理する。

- 38 県道出戸村松線（大谷）、県道天神林上条線（若宮町・長福寺間）、県道宮寄上加茂線の宮寄上地内の拡幅整備を推進する。特に県道天神林上条線については、若宮公園横断道路が完成したが、これは本格的な交通のための道路ではないので、

- 39 県道の開通を急ぐ必要性が強くなっている。下条地域内の県道天神林上条線は、拡幅できるところを拡幅する。

- 40 下条矢立境線の交差点の改良と歩道整備を行う。
- 41 黒水・土倉線のさらなる整備を常に念頭に置く。
- 42 都ヶ丘と学校町を結ぶ幹線道路の建設の準備を行う。

- 43 赤谷幹線の道路改良工事を行う。
- 44 舞台八幡線の道路改良工事を行う。

- 45 世界のトップクラスの変速機メーカーである（株）日立ニコトランスミッションまで大型トレーラーが通行できるようにするため、新福島線の設計を行う。

- 46 希望ヶ丘バイパス建設の準備を行う。

- 47 猿毛山ドリームライン建設の準備を行う。

- 48 道路新設・改良事業と水路改良事業を着実に進める。

- 49 基幹林道今滝冬鳥越線につながる新規建設の林道大皆川線（六カ年計画）が完成したので、しっかりと維持・運営する。

- 50 基幹林道今滝冬鳥越線の整備を二十六年度に完了したが、その他の林道の整備も着実に推進する。

- 51 大正川の国道四〇三号線下拡幅工事が完了

- し、上流の家屋の浸水の危険は大幅に減ったが、さらに上流の拡幅を県に要請する。完成した大正川の川口の排水機場のポンプの増設をめざす。
- 52 下条川への下条排水機場をしっかりと維持運営して、西加茂の水を排水する。
- 53 国により移転改築された川西排水機場を円滑に運営する。
- 54 日本歴史上最大級の英雄賀茂次郎源義綱公の墓所の修理が完了したので、しっかりと維持する。
- 55 信濃川河川敷の「桃の花公園」の今後の工事の準備を進める。
- 56 若宮町二丁目の急傾斜地崩壊防止事業を推進する。
- 57 廣田寺裏の危険箇所の大規模改修工事が終了し、そこに雪椿を植え終わったので、その育成を行う。
- 58 消防団と地域消防が火災・水害等で出動した場合に炊き出しを行って、食事を提供する。
- 59 消防・救急の充実に努め、消防団員の皆様を高く処遇する。消防団員の出勤手当その他の手当を県内最高額として、その労に報いる。新たに装備した救助資機材搭載型積載車を初めとする消防団拠点資機材を活用して、防災力をさらに高める。大地震の際の救出作業のため、消防団の三十二の各部に対し、強力なカッター（チェーンソー）の配備に着手する。
- 60 加茂地域消防で通常運行する四台の高規格救急車の力を最大限に発揮するよう力を尽くす。
- 61 加茂警察署の廃止を阻止し、守り抜く。
- 62 日本一の福祉と児童福祉のまちを堅持する。
- 63 日本一のトップクラスの健康施策のまちを堅持し、予防接種の全額助成を十分に行い、健診をしっかりと行う。人工透析の交通費を支援する。加茂市の独自の健診は、前立腺がんと心電図である。加茂市の大腸がんの便潜血検診は、無料の郵送方式として、検診を容易にしている。
- 64 日本一商工業が守られているまちを堅持する。
- 65 日本一農業が守られているまちを堅持する。
- 66 日本一自然環境が守られているまちを堅持する。
- 67 スクールバス三十台の日本一の体制をはじめ、高い教育施策の水準を堅持する。各小中学校の施設の維持管理に力を尽くす。全小中学校の教室を冷房化し、下条小、石川小、葵中の非常階段を新しくする。
- 68 文化会館の耐震診断を行う。

- 69 西小学校における複式授業を回避する。
- 70 国の政策に合わせて、小学校五・六年生と中学校の英語教育を充実するため、教材を十分に整えるとともに、ALT（外国人教師）を堅持し、車もしつかり支給する。
- 71 平成二十四年度から中学校で武道が必修となったが、生徒各位が安心して授業を受けられるよう、今年度も多種目から選択できる武道の授業を行う。
- 72 加茂市の奨学金を十分に提供する。
- 73 日本有数の温泉「加茂美人の湯」を豊かに運営する。
- 74 ホームヘルパー七十人と在宅介護料・看護料無料を堅持する。
- 75 県下二十市中最低クラスの保育料を堅持する。
- 76 月五千円から一万五千円の児童手当をしつかり支給する。
- 77 消雪パイプの改修を進める。
- 78 防犯灯の設置を進める。
- 79 加茂和紙の紙漉き技術保存振興事業を推進する。
- 80 五割に近い減反と米価の大幅下落等で未曾有の苦難の中にある加茂市農業を守るため、引き続き農機具購入費補助等の施策を推進する。補助率は、平成二十八年度と同様とする。即ち二〇%とするが、全く減反しなかった方は一五%とし、減反した率に応じて補助率を決めるものとする。
- 81 日本農業を壊滅させるTPPと農家の数を十分の一にまで減らして農村を崩壊させることをめざす国の農政に反対する。
- 82 前政権がつくり上げた所得補償制度は、相当に良いものであった。これをくずしてしまうことに強く反対する。
- 83 無傷で存続させることができた株式会社日立ニコトランスミッション（旧株新潟鐵工所加茂工場）と存続させることができた株式会社アスコテック（旧丸五技研）等並びにこれらの下請け・孫請け企業を支援する。
- 84 加茂市の全企業を全力をあげて支援する。
- 85 企業誘致に努め、誘致した大野精工株式会社等を大切にし、支援する。二十八年度から、企業設置奨励金を、増設・移設の場合も、新設同様に年間固定資産税と都市計画税額の一〇〇%の交付とした。
- 86 東芝ホームテクノ株式会社、株式会社日立ニコトランスミッションをはじめ、あらゆる企業

を全力で支援する。

87 商工業を懸命に支援して、その繁栄を図る。

88 各業界を強力に支援する。

89 商店街を守り抜く。

90 加茂市の商店街を守るため平成二十一年に制定した郊外型大型店の新規出店を阻止する条例を堅持する。

91 (旧)まるよし五番町店の場所に開設した食料品スーパーと中央コミュニティセンターを円滑に運営する。

92 たんす・建具を中心に木工業の国内販路開拓を推進するとともに、海外販路も開拓する。

93 失業者の救済に全力を尽くし、やむを得ざる場合は、生活保護をもって、対応する。

94 シルバー人材センターをしっかりと支援する。

95 光ファイバーサービスと携帯電話が市の全域に通じたので、この高い水準を堅持する。

96 乳幼児のヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、水痘ワクチン、日本脳炎ワクチン、B型肝炎ワクチン接種の全額助成を十分に行う。インフルエンザ予防接種の六十五歳以上高齢者全額助成と幼児・児童の一回目接種の全額助成をしっかりと行う。高齢者に対する肺炎球菌ワクチンの予防接種を推進する。

97 幼児、児童、生徒の人権をしっかりと守る。

98 子ども達にクマ除けの鈴を無料配布し、市民の皆様にも販売する。

99 妊産婦医療費の原則無料を堅持し、不妊治療を支援する。妊婦健康診査料の助成をしっかりと行う。

100 白血病治療の骨髄移植ドナーの入院、通院を強力に助成する(一日二万円)。推進団体である

「骨髄バンク命のアサガオにいがた」を支援する。

101 国民健康保険加入者の人間ドック健診料の約七割を補助する(年齢も「三十歳以上」に拡大している)。

102 学校、公共施設、公園、公共トイレの洋式化をさらに進める。

103 日本有数の体操トレーニングセンターと市営サッカー場を円滑に運営する。新体操教室をしっかりと支援する。

104 加茂スキークラブのジュニア育成を支援する。

105 温水プールの優れたコーチによるスイミングスクールの発展させる。

106 冬鳥越スキーガーデンを充実し、蒲鉄の電車と電気機関車(文化財)を大切に保存し、展示する。バラ園、花時計を充実し、菊花展も行う。

107 加茂山公園、粟ヶ岳県民休養地、下条川ダム

公園等を豊かに維持運営する。

108 若宮公園の整備を推進し、二万年前旧石器公園を円滑に運営する。

109 小京都加茂市全体を憩いの場として整備する。

110 「小京都加茂のハイキングコース」を編さんしつつ、コースを整備する。

111 粟ヶ岳登山道、里山遊歩道の整備と川の中の木の伐採をさらに推進する。

112 加茂美人の湯の運営にあわせて、粟ヶ岳登山を支援する。

113 交通安全施設の整備を大幅に進める。

114 小中学生の自転車交通事故の防止に全力を尽くす。

115 下条と大谷と高柳の整備された圃場をしつかりと維持運営する。

116 宮寄上(小乙、岩野)の圃場整備を推進する。

117 下水道の整備は、財政が許す最大規模で推進する。

118 県下二十市中最低の水道料金を堅持する。西山、上・中大谷に整備した上水道を円滑に運営する。天神林浄水場等の電気計装施設を更新する。水道会計は、まもなく起債償還額が急激に減り、財政状況がきわめて楽になる。

119 すべての加茂市民が粟ヶ岳の水が飲めるようになった水道を円滑に運営する。

120 サラ金等に対する対策として、消費生活相談窓口をしっかりと運営する。

121 旅券発給業務を円滑に行う。

122 障害者総合支援法の施行に伴う事業を充実させる。

123 後期高齢者医療広域連合が的確に運営されるよう全力を尽くす。

124 デイサービスとショートステイを十分提供する。

125 第三子以後のお子様誕生祝金十万円を贈呈する。

126 好評の六つのコミュニティセンターと、かも川荘、ゆきつばき荘、並びにいわゆる「百円風呂」を快適に運営する。

127 須田中央公園内の「憩いと遊びの広場」の施設、上条の「乳幼児あそびの広場」の施設をもに快適に運営する。

128 市内の全ての子供の遊び場を市がしっかりと維持管理する。

129 知的障害者通所施設「雪椿の舎(いえ)」を全力をあげて支援する。

- 130 知的障害者援護施設の建設を常に念頭に置く。
- 131 小中学校の特別支援学級をしっかりと支援する。
- 132 私立保育園・認定こども園をしっかりと支援する。
- 133 児童館をしっかりと運営する。二十九年度からは、石川小学校に集中して、土曜日開館を行う。
- 134 チャイルドシート購入二割補助を継続する。
- 135 公立保育園の園児バスを円滑に運営する。
- 136 小中学校のパソコン教育を推進し、インターネットの活用を進める。
- 137 小中学校の教職員に各人一台ずつ市からパソコンを提供する。
- 138 小中学校の給食のお米をすべて加茂産のコシヒカリとする制度を継続する。
- 139 七谷小学校のいわゆる旧校舎の水道管の更新を継続する。
- 140 スクールバスの運行の日本一の体制を堅持し、障害のあるお子様のためのスクールバスの運行にも万全を期する。
- 141 西小学校の建て替えを常に念頭に置く。
- 142 育成会、スポーツ少年団をしっかりと支援する。
- 143 ボーイスカウトおよびガールスカウトをしつかり支援する。
- 144 文化および体育の充実を期する。
- 145 伝統文化子ども教室を支援する。
- 146 各中学校に茶道部を創設したので、しっかりと支援する。
- 147 各中学校に美術部、書道部、スキー部等を創設することをめざす。
- 148 「加茂川ブルース」(美川憲一)が全国版になったので、さらに全国に広める。
- 149 新たな加茂市史の編さん作業を進める。
- 150 加茂市指定文化財を保護する。
- 151 消防の災害救命ボート二艘を運行する。
- 152 大改修した加茂市・田上町消防衛生保育組合のごみ焼却炉をしっかりと運営するとともに、ごみ問題には常に的確に対応する。
- 153 加茂市・田上町消防衛生保育組合の焼却炉の灰を的確に処分する。
- 154 山に繁茂した竹を切る。
- 155 下条川ダムの入漁料無料を継続し、加茂市のヘラブナ放流量二トンを維持し、日本有数のヘラブナ釣りの名所として大切にする。
- 156 加茂川漁協に対する支援に力を入れつつ、加茂川での鮎や鮭等特定の魚以外の入漁料を無料

とし、子どもたちのサシ網漁も多く、場所で行える態勢を維持する。さらに二十九年度は加茂川漁協の養魚池増設を支援する。

157 市民農園の開設について検討する。

158 加茂市のパソコン化・インターネット化を推進する。

159 マイホーム支援資金の金利一・八%を極力維持する。また、加茂市に本店を有する建築業者に発注した場合の金利は、極力一・四%とする（いずれも固定金利）。

160 「桐・松の苗を植え育てる運動」をさらに推進する。

161 加茂市の山にバイオテクノロジーによる、小さい虫に強い松を植える。

162 家畜堆肥処理施設の建設については、常に着手の機をうかがう。

163 上記のほか、市民の皆様の御要望をすべて実現することを目標として、各般にわたり、施策を進める。

164 国・県の資金を大量に導入して、豊かな市政を運営する。

以上でございます。

（国を亡ぼし、地方を亡ぼす市町村合併の毒牙から逃れた加茂市の未来は、燦然と輝く）

さて、私達は、加茂市を消滅から守ることができました。加茂市は、国を亡ぼし、地方を亡ぼす市町村合併の毒牙から遁れることができました。加茂市の未来は燦然と輝いております。合併しなかった田上町の未来も燦然と輝いております。このことは、すでに明らかになって来ていると思います。そして十年後には歴然として明らかになっているはずであります。まことに市町村合併などということは、専ら国が地方へよこす金を削るために行われたものであり、小泉内閣の時代に、きわめて短期間の間に起こった嵐のようなものであります。新潟県がこれに巻き込まれてしまい、全国で最も市町村合併が進んだ県になってしまったことは、返す返すも残念であります。

合併しない加茂市が合併したまちに比べて、財政が豊かでありますことは、国から大幅に交付税を削られても、福祉、教育、産業保護等万般にわたって、高い市政の水準を堅持し続けて来たことから明らかであります。

前にも申しましたように、小泉・安倍第一次両

内閣の極端な地方切り捨て政策は、参院選の与野党逆転という報いを受けて幕を閉じ、福田内閣と麻生内閣は、併せて二億九千万円の加茂市が自由に使える地方交付税を戻して来しました。

さらに、平成二十一年九月に誕生した民主党の鳩山新政権は、地方重視と弱者重視の政策をとり、普通交付税だけでも、加茂市が自由に使える金を二億六千万円増やしました。また、加茂市は力を尽くして、二十一年度だけでも十一億四千万円の臨時の交付金を獲得することができました。かくして加茂市は、二十一年度において黒字財政に転換し、二十二年度はさらに大幅な黒字財政となり、財政上の最大の試練の時期を乗り越えることができました。

しかし、次の菅内閣は、再び緊縮財政政策に転換したため、二十三年度当初予算は二千四百万円の黒字にとどまりました。

ところが、平成二十三年三月十一日に東日本大震災が発生したことを契機として、菅内閣は、年度途中に加茂市に対し、一億二千九百万円の地方交付税（臨時財政対策債を含む。）を削減してまいりましたので、平成二十三年度末は、平成二十二年度末に比べて貯金が二億八千五百万円減るこ

とになりました。

平成二十四年度も二十三年度同様一億二千九百万円の交付税が減らされたままでしたので、厳しい財政運営となりました。

そして、二十四年暮れに誕生した安倍第二次内閣は、地方交付税を大幅に削減し、加茂市においても、自由にできる地方交付税が一億三千四百万円も削減され、二十六年度末に貯金が三千五百七十七万円くらいに減ってしまったことは、前述のとおりであります。

しかし、平成二十七年度において、安倍内閣は、地方交付税と地方消費税交付金を大幅に増やしてくれました。それに加えて、加茂市は真にやむをえず、国の指示に従って、正規職員を平成十三年度から二十七年末までに百人以上削減したこともあり、平成二十八年度当初予算は、一億二千五百万円の大幅な黒字予算となり、このたびの平成二十九年度当初予算も四千万円の黒字予算となつて、二十九年度末の貯金は、二億四千百万円に達する見込みであります。

一方合併したまちにとっては、まだまだ厳しい試練が続きます。合併しなければ必要がなかった施設等を巨額の合併特例債で造り、あとでその三

割を自己負担で返済しなければなりません。地方交付税交付金の「合併補正」という優遇措置も五年間で終わりになります。そして、合併後十年経つと五年をかけて、「段階補正」という制度によって、地方交付税を驚くほど減らされることとなります。いわゆる「一本算定」であります。たとえば県の試算によれば、「一本算定」によって毎年減らされる地方交付税交付金の額は、上越市八十三億九千五百万円、佐渡市五十億五千三百万円、長岡市六十二億八千六百万円、魚沼市二十八億五千万円、村上市二十四億五千二百万円、十日町市二十三億六千三百万円、三条市十四億二千百万円というものであります。

ところが、二十六年度に国が方針を転換し、①支所に要する経費の算定、②人口密度等による需要の割増し、③標準団体の面積を見直し、地方交付税交付金の単位費用に反映する等の措置により、「一本算定」による地方交付税削減額の約七割を補てんするという措置をとりました。

市町村合併の唯一の目的が、国が地方へよこす金を大幅に削減することであったはずなのに、その七割を戻してくれたのでは、何のための市町村合併であったか、わからないことになってしまい、

愚かな話となりました。

しかし、やはり、三割分は削減されますので、合併したまちにとつては、厳しいこととなります。他方、七割分を戻してくれるということは、加茂市のように合併しなかったまちにとつても、加茂市は支所がありませんからその分はもらえませんが、それ以外の分は、だいたいもらえますから、その分豊かになります。

いずれにいたしましても、加茂市は、厳しい中にも良好な財政状況の下で、悠々として、市民の皆様お一人おひとりに対する愛情を根本として、高い理想を掲げながら、叡智の限りを尽くして、賢明に、冷静に、的確に市政を推進して行くことになります。そしていつまでも、高い水準の市政を堅持して行くことになります。

北越の小京都加茂市の未来は、ますます燦然と輝いております。みんなで力強く歩んでまいりましょう。



平成28年度 加茂市表彰式



各分野で活躍されている方々に表彰状を贈呈

平成二十八年度の加茂市表彰式が、三月二十九日、文化会館で行われました。

表彰を受けたのは四十三名の方々に、いずれも各分野での功労・功績をたたえてのもので、表彰された方々は次のとおりです。（敬称略）

【自治興隆】

増井敬治 農業委員会委員として十年以上。早田

渡邊 晃 固定資産評価審査委員会委員として十年以上。北潟

【業務精励】

水科政明 四十年以上にわたり桐箆箆職人として精励。秋房

【教育文化功労】

外石榮子 公民館運営審議会委員として十五年以上。陣ヶ峰

古森清五郎 第九十九回二科展彫刻部特選受賞、第七十一回新潟県美術展覧会（県展）彫刻部門奨励賞受賞など。天神林

【保健衛生】

廣川健介 献血五十回以上。幸町一金子和子 献血五十回以上。第二十三区

樋口欽也 献血五十回以上。五反田

阿久津伸治 献血五十回以上。上条

飯岡晋介 献血五十回以上。第一区
外山浩三郎 献血五十回以上。神明町一

渡邊敏彦 学校歯科医として二十年以上。上条

【社会福祉功労】

番場多越 民生・児童委員として十二年以上。第一区

谷口キミ子 民生・児童委員として十二年以上。第二十四区
番場 勇 民生・児童委員として十二年以上。上下条

【消防功労】

佐原禎一 消防団員として三十年以上。本町

谷地田敏博 消防団員として三十年以上。北潟

渡邊茂夫 消防団員として三十年以上。仲町



山崎孝満 消防団員として三十年以上。上三区
 小柳復一 消防団員として三十年以上。新町一
 北澤忠男 消防団員として三十年以上。陣ヶ峰
 北澤昭一 消防団員として三十年以上。仲町

【市行政功勞】
 金子美智子 統計調査員として十年以上。番田
 小林昭吾 統計調査員として十五年以上。本町
 長谷川昭一 統計調査員として十五年以上。中大谷
 番場秀夫 神明町二丁目区長として十年以上。神明町二
 土田源吉 国民健康保険運営協議

平野昇一 加茂山公園神池児童転落事故における人命救助。新潟市

【人命救助】

永井榮子 教育委員会委員として二十年以上。栄町
 永井尚文 農業委員会委員として二十年以上。天神林

三浦伸一 教育委員会委員として二十年以上。五番町
 安武秀敏 市議会議員として二十五年以上。幸町二
 古川良二 固定資産評価審査委員会委員として二十五年以上。青海町二

【自治興隆】

【特別表彰】

会委員として十五年以上。後須田第四
 三浦伸一 国民健康保険運営協議会委員として十五年以上。五番町
 金谷國彦 都市計画審議会委員として十五年以上。上興屋向
 古川良二 都市計画審議会委員として十五年以上。青海町二

平成28年度 加茂市教育委員会表彰式



教育文化の発展・振興に寄与された方々を教育委員会が表彰しました。表彰式では、加茂市長、教育長から功績に対する感謝の言葉が贈られました。表彰された方々は次のとおりです。(敬称略)

【教育文化功勞】
 佐藤一紀 図書館協議会委員として十年以上。横江
 田澤淑子 多年にわたりガールスカウト新潟県第三十団指導者として青少年の健全育成に寄与。八幡一
 志田京子 多年にわたりガールスカウト新潟県第三十団指導者として青少年の健全育成に寄与。第一区
 武内典子 多年にわたりガールスカウト新潟県第三十団指導者として青少年の健全育成に寄与。大郷町一

【体育功勞】

渡辺凜太郎 JOCジュニアオリンピックカップ第九回全日本ジュニアテコンドー選手権大会において中学生男子五十七kg級優勝。石川二

【保健衛生功勞】

佐藤忠司 献血百回以上。横江
 関根拓也 献血三百五十回以上。

【社会福祉功勞】

金子美智子 民生・児童委員として二十年以上。番田

【市行政功勞】

山際平吉 番田区長として二十年以上。番田
 廣野豊作 国民健康保険運営協議会委員として二十年以上。若宮町一

八幡三

中沢遺跡出土の北陸系土器群

中沢遺跡は二世紀後半、弥生時代後期後半のムラである。発掘調査で大量の弥生土器が出土した。土器は煮炊きに用いられた甕、食べ物を盛り祭事などに使用された高杯や器台、貯蔵用の壺がある。土器の大きな特徴は甕を中心に、壺や高杯の段を持つ口縁部に擬凹線文と呼ばれる櫛歯状の工具で多条の平行線が施されることである。この文様は北陸地方の法仏式と呼ばれる土器型式に特徴的なものである。その作り方は法仏式が分

布する中心地である北陸南西部（石川県や福井県辺り）の土器に非常に類似しており、在地の弥生人が模倣して作ったものではなさそうである。北陸南西部からダイレクトに中沢遺跡に持ち込まれたものと推測され、法仏式土器を携

えた人々が移住してきた可能性がある。

この頃の新潟県の土器様相は上越～柏崎の平野部や阿賀野川以南の東山丘陵から西の平野部においては北陸系、長野県に近い妙高市や信濃川上流域には信濃系、阿賀北や魚沼地域では東北系の土器が主体的に出土することが知られており、加茂近辺は北陸系と東北系の分布の境界に位置している。

同時期の周辺の遺跡では北陸系の土器を主体としながら、東北系や信濃系などの土器が混在し、北陸系と東北系が折衷したものも見られるなど複数の系統の土器が混在するのが一般的であるが、中沢遺跡は北陸系のみで構成されており異なる状況が指摘できる。

加茂の弥生時代中期の土器や石器に信濃や東北との交流を示すものがあることから、中沢遺跡の土器様相は前代からの状況が大きく変化したことを物語っている。その背景に北陸南西部の人々の強い関与があり、続く古墳の出現期にも大きな影響を与えたことは間違いない。

（伊藤秀和）

加茂の風土記

中沢遺跡出土の弥生土器

後列は煮炊き用の甕（右側）や貯蔵用の壺（左側）。前列は左から脚台付装飾壺、高杯と鉢が2点。



加茂市へ

▼国際ソロプチミスト新潟 茜から

図書カード三十万円

あじとく

人口のうごき

3月1日現在
 世帯 10,300 (-7)
 人口 28,153 (-34)
 男 13,647 (-19)
 女 14,506 (-15)
 ()内は前月比
 (2月異動分)
 出生 12 (男6女6)
 死亡 35 (男17女18)
 転出 48 転入 37